

令和8年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

甲斐市立竜王南小学校

■この調査は・・・

義務教育の機会均等とその水準の向上のために、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して教育施策の改善を図るとともに、一人ひとりの児童生徒の学習の課題を把握して指導改善につなげるために実施しました。本校の子どもたちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。

■調査の結果は・・・

対象が小6と中3、教科も国語／算数・数学に限られています。したがってここに示す結果は児童生徒の「学力の特定の一部分」であることをご理解ください。（英語・理科は、3年に1度の調査となります。）

1 調査結果について

■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

- ・国語の平均正答率は全国を少し上回り、算数は少し下回っています。
- ・国語の漢字の読み書きでは高い定着があります。また、文章の種類とその特徴について理解したり、目的に応じて、必要な情報をみつけたりすることに関しても定着率が高いです。日頃の取り組みの成果がみられます。しかし、引用して自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したり、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめたりすることを苦手とする傾向があります。
- ・算数では、四捨五入して概数に表したり、小数が整数と同じ仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくったりなど「数と計算」領域の基礎・基本の定着率が高いです。日頃からの継続した取り組みの成果がみられます。しかし、単位当たりの大きさを求めるわり算の意味を理解することや、基準量、比較量、割合の関係を正しく理解することなど「変化と関係」領域に関しては苦手とする傾向があります。また、応用問題や文章問題になると苦戦してしまう児童が多い傾向もあります。

■質問紙調査からみえる本校の子どもたちの姿

- ・よい傾向がみとめられる項目

自己肯定感と学校生活への満足度、友だち関係の良好さがとても高く、互いに良好な人間関係を築き、自分の価値を認め、将来に夢や目標をもって学校生活を送っている児童が多いです。

ICT機器の活用において、意欲的に活用するとともに能力の高い児童が多く、これまでの経験からICTを活用した学習への肯定的な認識をもっている児童が多いです。

- ・課題となる項目

学校の授業時間以外にICT機器を勉強のために使っている児童が少ない傾向があります。

1日当たりの読書量が10分より少ない児童が多い傾向があります。

2 これからの取組について

■学校で取り組んでいくこと

- ・「言葉」を根拠とともに活用する授業の推進：国語に限らず全教科で、文章の引用やデータ・図表を根拠として自分の考えをまとめ、記述・発言させる機会を増やします。
- ・視覚化と説明を重視した算数指導の徹底：文章題や割合・単位あたりの計算において、公式に頼らず「数直線や図に表す」「立式の理由を言葉で説明する」指導を強化します。
- ・家庭学習と連動したICT活用の習慣化
デジタルドリルやタブレットを使った調べ学習・振り返りなど、学校から家庭へつながるICT学習課題の回数を増やしていきます。
- ・本に親しむ環境作りと読書時間の確保
図書室の活用、おすすめ本を紹介し合う活動などを通じて、校内での読書意欲を高めます。

■家庭において取り組んでいただきたいこと

- ・日常の会話や生活の中で「考え・根拠」を広げる関わり
読んだ本の感想やニュースについて「どこを見てそう思った？」と聞いたり、買い物や料理の中で算数の要素（割合や単位）に触れたりして、学びを生活に結びつけていただきたいと思います。
- ・家庭での学びの環境づくり（時間とツールの見直し）
「寝る前の10分読書」など親子で本に親しむ時間を決めたり、タブレットやスマホを動画・ゲームだけでなく「学習や調べもの」に使うルールやきっかけを作っていただけたりとありがたいです。